

□10月22日 敬老祝福礼拝説教短縮版(隅野徹牧師) 目標を目指してひたすら進む(フィリピ3:12)

この箇所パウロが教える「神・キリストによって上へ召されて、与えられる賞」とは私たちが、「全速力で走る」というのとは違うニュアンスなのではないかと個人的に思います。もっというなら歩みの途中で立ち止まり「自分の弱さ、不完全さ」を感じて、「自分は本当に走り切れるだろうか？」と不安を感じながらの「歩みでよい」ということが教えられているのではないかと、私は思うのです。みなさんはいかがでしょう？この先も「一心不乱に、人生のレースを走り切れる」と思っている方はおられるでしょうか？私はそのような自信はありませんし、牧師としても山口信愛教会のこの先の歩みにも「不安」があります。

しかし、それでよいのではないかと思います。立ち止まるから、そして不安に思うからこそ「完全ではない自分」に気づかされ、そしてより一層「私たちに自ら近づき、出会ってくださったキリストに、私たちはますます頼ることができる」となると理解しています。ご年配の方でも、まだお若い方でも、いったん立ち止まって「弱い自分をもっと神に委ね、神と共に人生のゴールまで自分らしく歩んでいきたい」という思いが与えられることを願います。「神・キリストがお与えになる賞を得るために、目標を目指し、前のものに全身を向けてひたすら走る」とは、他人との比較ではない「自分らしい信仰の歩み」のことを言っている、そう理解していただければ幸いです。

イエス・キリストとともに歩む人生には、明確な目標・ゴールが示されるのです。この世で歩みを進める間は、決して完成しない「見えないゴール」ですが、いつか私たちがこの世から旅立つとき「栄光のキリストの復活の命に、自分も与ることができる」そこに生きた希望があるのです。どうか、この先も迷わずに「神と共に」進んでまいりましょう。(終)